

6 月 29 日 年間第 13 主日 (日本の典礼では朗読箇所が異なる)

賢く建てなさい

マタイによる福音書 7 章 21 ~ 27 節

²¹「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心をを行う者だけが入るのである。²²かの日には、大勢の者がわたしに、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。²³そのとき、わたしはきっぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ。』」

²⁴「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。²⁵雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。²⁶わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。²⁷雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」

他の朗読：申命記 11:18, 26 ~ 28, 32 詩編 31:2 ~ 4, 17, 25 ローマ 3:21 ~ 25, 28

Lectio …読む

今日の朗読箇所ではイエスの山上の説教は終わります。前までの節を検討するのもまた役に立ちます。マタイ 7 章 13、14 節でイエスは、人々には 2 つの門の選択があると教えています。1 つは狭く、その道から入るのは難しく、もう 1 つは広くて、入るのも簡単です。大半の人々は安易な道を選びますが、その道は地獄に通じます。ほんの一握りの人たちが天国に通じる道を選びます。このことは、15 ~ 20 節中の 2 種類の木のイメージにも続いています。すなわち真の弟子たちは、よい実を結ぶと説明しているのです。

今日の聖書の箇所はこのテーマを続けます。イエスは、キリスト者の生活様式はつまるところ、単純な選択、すなわち従順である、ということを明確に示しています。イエスの教えを、単に読んだり聴いたりするだけでは十分ではありません。真の弟子であるしるしは、神が私たちに命じることを行っていくことです (21、24 節)。

イエスは、かの日 (キリスト者を含めて全ての人のための終末期における最後の審判の日) について話しています。これはイエスの時代の新しい考えではありませんでしたが、ここでイエスは最後まで弟子としての資質を持ち続けることの重要性をすべての人が理解するようにと願っています。イエスは彼自身が、誰が天国に入ることができ誰が入れないのか、最後の判決を下す裁判官であることを明らかにしています。

考えさせられるのは、表面的なものが人をだますことがあるということです。人々は神のために素晴らしいことを行ったように見えるかもしれませんが、イエスは人々の心の中まで見えています。イエスは人々の真の動機を見、イエスの教えを生活の中で実践してきたかどうかを見ているのです。

選択について話を戻しましょう。誰が賢い選択をするのでしょうか。賢明にも岩の上に家を建てる人は、人生の嵐が自分で建てた家を倒すのを見ることはないでしょう。その人はどうやって、どこに何を建てるかを学ぶのでしょうか。それは神の言われることを聴き、そして従順に神の指示に従うことによってです。

Meditatio …黙想する

イエスは、人を賢くするのは何であると言っているのでしょうか。あなた自身は、どのくらい賢くこの規範に従っていると思いますか。

あなたはキリスト教の信仰の土台は何であると考えますか。あなたの日常生活の中でそれはどれほど重要ですか。

イエスは、私たちの生活の中で「嵐」に遭う可能性があることを明らかにしています。あなたの信仰は今までに「嵐」、あるいは突然肉親に先立たれるといった混乱、あるいは失業、その他の出来事によって試練を受けたことがありますか。試練の時、何があなたの信仰を保たせてくれるのでしょうか。

Oratio …祈る

ローマ 3 章 21 ～ 25 節と 28 節を読みましょう。この箇所は、私たちの救いは、完全に神の恵みによりのみ基づく無償の贈り物であり、イエスの死と復活を通してもたらされたことを思い出させてくれます。

死ぬまで神の慈しみに従順に生き続けることが、真の弟子として神に応えることになります。神に従い、神を喜ばせる生き方ができるよう、助けを願いましょう。

Contemplatio …観想する

イエスは「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。私の父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。」と言っています (ヨハネ 14 章 23 節)。少しの間時間を取って、この箇所を熟考してみましょう。